

17	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	13854014	慢性関節リウマチの細胞周期制御療法の開発と実用化の検討	宮坂 信之（東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授）	B
<p>(意見等)</p> <p>Cyclin-dependent kinase inhibitor (CDKI)の発現が滑膜細胞の増殖停止に関与するとの本研究者らの先行発表（1999年）を基に、本研究では慢性関節リウマチにおいて細胞周期制御遺伝子を強制発現させて滑膜細胞の増殖を抑制するという CDKI 療法の分子基盤についての検討と実用化を目指した。関節炎治療用ウイルスベクターの改良、CDK 阻害性低分子化合物の探索や作用機序の解析、TAT-融合蛋白と3つのアプローチからの細胞周期制御法についてはある程度の成果が認められたが、関節炎治療用ベクターの開発、生物学的製剤による CDKI 療法の完成にはまだ多くの課題が残されている。発表論文が少なく、研究代表者らの先行論文から大きな発展が認められたとはいえない。低分子治療薬については、作用機序が当初予測したものとは異なるようであるが、これらが今後新たなリウマチ治療薬として実用化されることを期待する。</p>				
18	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	13854015	Genomics 技術による新しい肝臓病学の確立	金子 周一（金沢大学・大学院医学系研究科・助教授）	A
<p>(意見等)</p> <p>Genomics という概念の導入による新しい肝臓病学の確立を目指した研究である。当初の研究目的である Genomics 技術を用いて色々な肝臓病における遺伝子発現の相違を明らかにすることについては、研究計画に沿ってほぼ順調に達成されたと考えられる。Genomics の限界が論じられており、Post-genomics まで視野に入れた理論の展開の必要性が考慮されるが、Genomics の技術を先駆的に導入し、遺伝子発現からみた肝疾患の病態の理解に有用な情報を提供した業績は高く評価される。また肝臓病学の分野のトップランクの雑誌に数多くの本研究の成果が発表されており、国際的にも価値の高い研究と考えられる。</p> <p>今後は、本研究の目的を超えるものではあるが、新しい肝臓病学の確立を目指してもらいたい。</p>				